釧路湿原自然再生協議会 ニュースレターNewsLetter



令和3年3月25日

編集・発行:釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

令和3年3月1日(月)「第27回 釧路湿原自然再生協議会」が釧路市観光国際交流センターで開催されました。

■開催概要

小委員会には、38名(個人17名、11団体12名、関係行政機関8機関9名)が出席しました。(コロナウイルス感染拡大状況により一般の方の傍聴は中止させていただいています。)

最初に事務局から第10期(前期)協議会構成員の公募結果について報告を行い、その後、第10期協議会の会長として中村委員、会長代理として高橋委員が選任されました。中村会長の進行のもと、「第9期(後期)協議会の収支報告」「第26回協議会以降の小委員会開催報告」などが行われ、内容を協議しました。

自然再生協議会とは

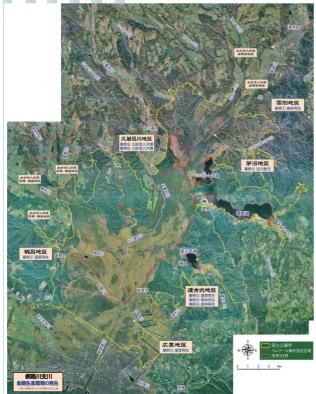


【第27回協議会 出席状況】

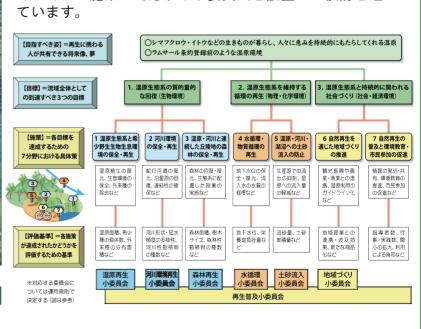
構成員	個人	17 /72名
	団体	11 /49団体
	オブザーバー	0 / 1 3 団体
	関係行政機関	8/10機関
合 計		38/144名

釧路湿原自然再生協議会は、「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」を踏まえて、自然再生事業を今後さらに効果的に実施するために、地元団体や行政機関・自然保護団体の呼びかけにより2003年11月に発足しました。具体的な事業について報告・議論する7つの小委員会を設置し、それぞれで検討を行っています。

自然再生事業の取り組み



釧路湿原の保全と再生の目標を達成するため、下図のように具体的な施策を7つの分野に分けて実施しています。 それぞれの施策に対応する小委員会を設置して検討を進めています。



第26回協議会以降の小委員会開催報告

湿原再生小委員会

第9

期

(後

期

釧

路

湿

原

自然再生

協

議

会

0

収

支

報

■幌呂地区自然再生事業について

今年度は引き続き事業実施箇所の地盤切り下げと排水路の埋戻しを行いました。既往の事業箇所では、 湿原植生は経年的に増加し、タンチョウやカモ類などの水辺を好む鳥類も確認されています。今後も継 続して実施します。

■達古武湖自然再生事業について

引き続きヒシの刈り取りや水質などの調査を行いました。ヒシを刈り取った場所ではヒシ以外の水草の面積が維持されています。



▲ヒシの刈り取りの様子

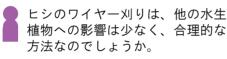
■広里地区自然再生事業について

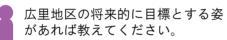
5年前の調査と比較した結果、ハンノキ林の発達 ・拡大は見られませんでした。今後は伐採など の管理は行わず推移を見守ります。



▲ハンノキ林の状況

このような意見交換が行われました。







湖面に水生植物が少ない場所で行っているので、 影響は少ないと考えています。今後、ヒシ以外の 水生植物が増えた場合は方法を検討していきます

小委員会で、旧農地区域のモニタリング実施の必要性について意見をいただいており、付随して実施検討している現地見学会の中で意見を伺いながら検討していきたいと考えています。

河川環境再生小委員会

■茅沼地区旧川復元事業について

ハンノキの樹皮の一部を剥ぎ取って立ち枯れ させることで、湿原植生の回復を促す試験を 昨年度から行っています。



▲環状剥皮の様子



▲ハンノキの枯死状況

■釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画について

令和2年10月に「釧路川支川魚類生息環境の再生計画書」を策定しました。令和2年11~12月には、対象河川に2基の魚道を設置しました。

また、2月26日に行われた自然再生専門家会議では、多く の委員から好意的な意見をいただいています。



▲魚道整備の様子

■ヌマオロ地区旧川復元事業について

令和元年度から旧川復元に向けた工事に着手し、令和2年度は工事用道路を施工しています。 事業によって影響を受ける希少植物は移植を行い、移植先での生育状況を確認しています。

このような意見交換が行われました。



ハンノキは環状剥皮 しても、根株が生き 残って樹林化するこ とはないのですか。



地下水位が高い場所で 環状剥皮をすると、萌 芽が抑えられる可能性 があります。



試験を始めて1~2年の結果なので、もう少し 経過を見ていきたいと 思います。

事務局

土砂流入小委員会

■河道の安定化対策について

河道の拡幅や帯工を改良することで、近年は土砂生産量が抑制されています。また、工事による河床高の大きな変化も確認されていません。今後も工事とモニタリングを合わせて実施していきます。

ニュースレター News Letter

■河川沿いの土砂調整地について

河川沿いの土砂調整地は平成29年度から工事し、令和元年に 河道拡幅と管理用道路が完成しました。

今後は効果を把握するため、横断測量と河床材料の調査を予定しています。

■排水路合流部沈砂池について

現在は標茶町、鶴居村、農業団体が管理主体となって施設管理やモニタリングを行っています。今後も土砂上げの実施や 堆積状況を確認していきます。

■湿原流入部土砂調整地について



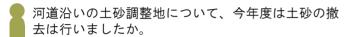
▲河道沿いの土砂調整地 整備前(平成28年9月)

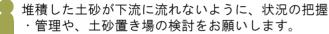


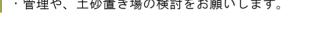
▲河道沿いの土砂調整地 整備後(令和2年6月)

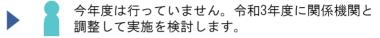
今年度の出水は小規模でしたが、モニタリング結果から、上流から流れてきた土砂のうち約1割が土砂調整地に堆積しました。 土砂の軽減効果は限定的でしたが、左右岸の土砂調整地全体が冠水したと推測されます。

このような意見交換が行われました。









来年度に調整地の測量を行う予定です。土砂置き場 の検討も進めていきます。





■雷別地区自然再生事業について

ミズナラやハルニレ等を2100本植樹し、食害対策として保護管で覆いました。来年度も引き続き、植栽とあわせて生育状況の調査を行う予定です。

■達古武地域自然再生事業について

植栽した苗木は順調に生長し、ダケカンバでは8年で樹高5mを越えるものもありました。

エゾシカによる影響もありますが、影響よりも 成長が上回っています。

また、森林の指標としている昆虫の個体数は全体的に過去と比べて少ない傾向でした。



▲成長したダケカンバ

このような意見交換が行われました。

森林の指標としている昆虫が、再生地だけでなく対照地でも減少しています。自然林自体の変化以外に要因があるかもしれないので、調査の方針を検討してはいかがでしょうか



調査結果を改めて確認して、今後の調査 方針の参考にします。

会

委員

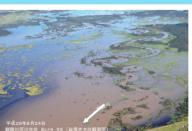
質疑はありませんでした。

車茲

水循環小委員会

これまでのモニタリング調査から、流量が増えると土砂や栄養塩が増加し、一定の流量になると鈍化することがわかりました。また、湿原の流出部では、流入河川に比べて川の濁りと流量が一致せず、時間差があることがわかっています。

さらに、釧路湿原の流域全体の土砂や栄養塩の動きを評価できるモデルを構築して、釧路湿原に流入・流出していく土砂量・栄養塩量の経年変化を算出しました。



▲2016年8月出水時の釧路湿原



▲2016年8月出水時の湿原流出部

地域づくり小委員会

地域づくり小委員会でのこれまで取り組みについて、今後も継続的に 活動を推進し、新たな取り組みを進めることに活かすため、活動内容 の中間成果とりまとめを行いました。

また、釧路湿原でのカヌー利用に関わるガイドラインの改訂に向けた ヒアリングや、釧路湿原の利活用事例について協議しました。

このような意見がありました。

★沼のまわりで、昔の調査で使用した木材やテープがそのままになっています。調査終了後は撤去するなどのルールづくりが委員必要だと思います。



▲活動報告書(案)



▲カヌーガイドライン改訂版

再生普及小委員会 質疑はありませんでした。

ワンダグリンダ・プロジェクトとしてフィールドワークショップや現地見学会を開催しました。また、情報発信・普及活動としてWEBサイトでの広報や、釧路湿原ラムサール条約登録40周年を記念した市民講座を開催しています。 さらに、学校支援WGの取組み課題の実践として、自然再生の学校教育への活用促進等を実施しています。











▲フィールドワークショップ

▲WEBサイトでの広報

▲釧路湿原ラムサール条約登録40周年記念市民講座の開催

その他

中村会長より、今後の協議会の進め方について提言がありました。

【前回協議会での話題に関して】

令和2年9月1日に行われた協議会で、民地で行われている森林伐採などの開発に関する情報を事前に把握する方法が難しいという話題がありました。この問題について協議会のなかで議論していくために、準備会を立ち上げました。自然再生事業で取り扱っている問題以外に、どのような課題があるかを挙げ、解決策・方向性を探っていきたいと考えています。今後の進め方が決まった段階で協議会で報告し、情報共有をします。

【気候変動の適応策に関する取組について】

生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)の例として、水循環小委員会で検討した釧路湿原のモデルによる結果が使われています。モデルでは、今後、気候変動の影響で川の流量が変化することで、土砂や栄養塩などの物質循環がどう変わるかなどの結果を示しており、今後は、水循環小委員会と各小委員会が連携していくことが重要です。釧路湿原自然再生協議会として、この気候変動の問題にも取り組んでいきたいと考えています。



▲協議会会長 中村太士氏

■第26回協議会以降に開催された小委員会の開催概要

	小委員会名	開催日時	議事
	第23回 湿原再生 小委員会	R3.1.21(木) 13:30~15:30	1. 幌呂地区自然再生事業について 2. 達古武湖自然再生事業について 3. 広里地区自然再生事業について
	第24回 河川環境再生 小委員会	R3.1.15(金) 13:30~15:30	1. 茅沼地区旧川復元事業について 2. ヌマオロ地区旧川復元事業について 3. 釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画 について
	第25回 土砂流入 小委員会	R3.1.28(木) 13:15~14:45	1. 久著呂川における土砂流入対策について 2. 今後の予定
	第20回 森林再生 小委員会	R2.11.17(火) 13:30~15:15	1. 雷別地区自然再生事業について 2. 達古武地域自然再生事業について
	第19回 水循環 小委員会	R3.2.12(金) 13:00~15:00	1. 水循環小委員会の検討経緯 2. 物質循環を把握するための調査・分析 3. 物質循環を把握するための数値モデルの作成 4. 施工評価手法の検討について 5. 今後の展開について

小委員会名	開催日時	議事
第10回 地域づくり 小委員会	R3.2.17(水) 13:30~15:30	地域づくり小委員会の目標達成に向けた施策 委員からの話題提供 実施プランの進め方 活動報告書(案) カヌーガイドライン(案) 釧路湿原の利活用事例
第35回 再生普及 小委員会	R2.10.13(火) 14:00~15:30	1. 再生普及小委員会の活動報告 2. 第4期再生普及行動計画に基づく取組について
第36回再生普及小委員会	R3.2.19(金) 14:00~15:30	1. 再生普及小委員会の活動報告 2. 湿原の保全や再生に関わる情報発信の拡充 について

~ 委員を募集しています ~

- ●毎年10月中旬~11月初旬に釧路湿原自然再生協議会の 委員を募集しています。
- ●どなたでも参加でき、興味のある小委員会に参加して いただけます。

■資料の公開方法 委員会で配布された資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

ホームページアドレス http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html

■ご意見募集 釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。 電話・FAXにて事務局までご連絡ください。



釧路湿原自然再生協議会ニュースレター No.27

[編集·発行]釧路湿原自然再生協議会 運営事務局 [連 絡 先]TEL(0154)23-1353 FAX(0154)24-6839